

1. 現行学習指導要領の成果と課題

- 家庭科、技術・家庭科（技術分野・家庭分野）においては、実践的・体験的な学習活動を通して、家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業等についての基礎的な理解と技能を養うとともに、それらを活用して課題を解決するために工夫し創造する能力と実践的な態度の育成を一層重視し、現行の学習指導要領に改訂された。
- 家庭科、技術・家庭科家庭分野においては、自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、生涯の見通しをもって、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する視点から、児童生徒の発達の段階を踏まえ、学校段階に応じた体系的な目標や内容の改善を図り、その充実が図られてきた。その結果、普段の生活や社会に出て役立つ、将来生きていく上で重要であるなど、学習への関心や有用感が高まるなどの成果が見られる。
- 一方、科学技術の発展等により人々の生活は豊かになったが、社会構造の変化や家庭や地域の教育力の低下等に伴い、家族の一員として協力することへの関心が低いこと、家族や地域の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分ではないことなどに課題が見られる。また、知識・技能を活用して生活の課題を解決する能力を身に付けることにも課題が見られる。更に、生活の利便性の向上や家族・家庭生活の多様化等に伴い、児童生徒の生活体験の不足や食生活をはじめとする基本的生活習慣の乱れ、消費生活の変化等、様々な問題が指摘されており、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することなどが求められている。
- このような状況を踏まえ、児童生徒が家族や地域の一員であることを自覚できるよう、地域の人材や関係機関等との連携を図り、人と関わる活動を充実すること、食育を一層推進すること、資源や環境に配慮したライフスタイルを確立することが求められる。また、家庭の機能を理解し、衣食住等の生活を自立して営むために、生活の科学的な理解を深め、知識・技能を定着させるとともに、それらを活用して生活の課題を解決する問題解決的な学習を体系的に進め、一層充実させることが求められる。
- 技術・家庭科技術分野においては、ものづくりを支える力などを一層高めるとともに、よりよい社会を築くために、技術を適切に評価し活用できる能力と実践的な態度の育成を重視し、目標・内容の改善が図られてきたところである。
- 一方、様々な技術の発達は、生活を質的に変化させるとともに、産業構造も含めて社会に大きな影響を与えている。その一方で、多くの国民が求める技術の開発が促されるなど、技術と社会は相互に影響し合う関係にある。そのため、高度化、システム化された技術に支えられた社会を生きる国民には、技術が生活や社会、環境等に与える影響を評価し、活用の仕方を考えるなど、適切な技術の発達を主体的に支えることのできる資質・能力の習得の必要性が高まっている。

- 併せて、ますますグローバル化し激化する国際競争の中で、我が国が科学技術創造立国として世界の産業をリードするためには、義務教育段階においても、技術革新を牽引する素地となる資質・能力の育成も必要である。
- しかしながら、技術分野においては、社会、環境及び経済といった複数の側面から技術の評価し具体的な活用方法を考え出す力や、目的や条件に応じて電気回路を設計したり、効率的な情報処理の手順を工夫したりする力の育成について課題があるとの指摘がある。このようなことから、技術の発達を主体的に支え、技術革新を牽引することができるよう、技術の評価、選択、管理・運用、改良、応用することによってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力の育成をより一層重視することが求められる。
- これまで述べてきた成果と課題を踏まえ、家庭科、技術・家庭科については、2. 以下に示す視点から、改善を図ることが求められる。

2. 育成を目指す資質・能力を踏まえた教科等目標と評価の在り方について

(1) 教科等の特質に応じた「見方・考え方」

- 家庭科、技術・家庭科家庭分野においては、生涯にわたって自立し共に生きる生活を創造することを重視しており、家族や家庭、衣食住、消費や環境など、多様な生活事象を学習対象としている。これらの生活事象に係る問題を解決するために、知識・技能を身に付け、それらを活用する学習過程において、教科ならではの「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現することが求められる。
- このような観点から、家庭科、技術・家庭科家庭分野では、「家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること」を「生活の営みに係る見方・考え方」として整理した。例えば、家族・家庭生活に関する内容においては、「協力・協働」、衣食住の生活に関する内容においては、「健康・快適・安全」や「生活文化の継承・創造」、消費生活・環境に関する内容においては、「持続可能な社会の構築」を主として考察する視点とすることが考えられる。
 なお、この「見方・考え方」に示される視点は、相互に関わり合うものであり、児童生徒の発達の段階を踏まえるとともに、取上げる内容や題材構成等によって、どの視点を重視するのかを適切に定める必要がある。
- 技術・家庭科技術分野で学ぶ「技術」は、よりよい生活や社会を目指して開発されるものであるが、これは、新たな自然科学上の発見の延長上にのみ存在するのではない。安全性も含めた社会的条件、環境的条件、経済的条件などを踏まえて、適切に知識や経験を組み合わせることで最適化することで生み出されている。また、新たな状況下で既存の技術を改良、応用する活動からも技術が生み出される。これらには、開発、生産や廃棄だけでなく、トラブルや災害等への対処等も含まれる。

- このように技術の開発・利用の場面では、「生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること」という技術ならではの視点や思考の枠組みが用いられることが多く、技術分野では、これを「技術の見方・考え方」として整理した。

(2) 小・中・高等学校を通じて育成を目指す資質・能力の整理と、教科等目標の在り方

- 家庭科、技術・家庭科家庭分野で育成を目指す資質・能力は、家族を大切にしようとする気持ちや自分が役に立つ喜び、地域への親しみなどの幼児教育で育まれる資質・能力と関わりがあると考えられる。また、小学校低学年の生活科における基本的な生活習慣や生活技能、身近な人々との接し方、中学年の体育科における健康によい生活や体の発育・発達の学習等を通して育まれる資質・能力ともつながる。
- 次期改訂に向けては、幼児期に育まれた資質・能力や、小学校低学年・中学年における学習を通じて身に付けた資質・能力の上に積み上げる形で、小学校家庭科、中学校技術・家庭科家庭分野、高等学校家庭科を通じて育成を目指す資質・能力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿って整理した。このため、中学校及び高等学校において、資質・能力としてこれまで用いていた「技術」を「技能」とすることとした。

- ① 知識・技能については、小学校では、日常生活に必要な基礎的な理解とそれらに係る技能であり、家庭生活と家族についての理解、生活の自立の基礎として必要な衣食住についての理解とそれらに係る技能、消費生活や環境に配慮した生活の仕方についての理解とそれらに係る技能等が挙げられる。

中学校では、生活の自立に必要な基礎的な理解とそれらに係る技能であり、家庭の基本的な機能及び家族についての理解、幼児、高齢者についての理解とそれらに係る技能、生活の自立に必要な衣食住についての理解とそれらに係る技能、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立についての基礎的な理解とそれらに係る技能等が挙げられる。

高等学校では、自立した生活者に必要な生活についての科学的な理解とそれらに係る技能であり、家族・家庭についての理解、乳幼児の子育て支援等や高齢者の生活支援等についての理解とそれらに係る技能、生涯の生活設計についての理解、各ライフステージに対応した衣食住についての理解とそれらに係る技能、生活における経済の計画、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立についての理解とそれらに係る技能等が挙げられる。

- ② 思考力・判断力・表現力等については、小学校では、日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力、中学校では、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的

に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力、高等学校では、家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力である。小・中・高等学校ともに、生活の中から問題を見出し、解決すべき課題を設定する力、生活課題について多角的に捉え、解決策を構想する力、実習や観察・実験の結果等について、考察したことを表現する力、他者と交流し、実践等について評価・改善する力等が挙げられる。

- ③ 学びに向かう力・人間性等については、小学校では、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度、中学校では、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度、高等学校では、相互に支え合う社会の構築に向けて、主体的に地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度である。その他に各学校段階に応じて、生活を楽しみ、味わい、豊かさを創造しようとする態度、日本の生活文化を大切にし、継承・創造しようとする態度、将来の家庭生活や職業との関わりを見通して学習に取り組もうとする態度等が挙げられる。

- 技術・家庭科技術分野においては、幼児期における物の性質や仕組み等への気付きや、新しい考えを生み出す喜びなどの、よりよいものを目指す基礎的な力や、小学校図画工作科における表したいことに合わせて材料や用具を使うといった学習活動や関係教科等におけるプログラミング教育を通じて身に付けた資質・能力等を踏まえるとともに、高等学校情報科のみならず、職業に関する教科・科目等への接続にも配慮しつつ、中学校教育を通じて育成すべき、技術を評価、選択、管理・運用、改良、応用することによってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を、以下のように整理した。

- ① 知識・技能については、生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換、情報等の技術についての基礎的な理解とそれらに係る技能及び、技術と生活や社会との関わりを理解であり、技術に用いられている科学的な原理・法則、技術の役割と、生活や社会、環境に与える影響についての理解とともに、技術を安全・適切に管理・運用できる技能等が挙げられる。
- ② 思考力・判断力・表現力等については、生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力であり、生活や社会の中から技術に関わる問題を見出し、解決すべき課題を設定する力、課題の解決策を条件を踏まえて構想（設計・計画）する力、試行・試作等を通じて解決策を具体化する力、課題の解決結果及び解決過程を評価し改善・修正する力とともに、課題の解決策を構想する方略としての製作図、流れ図、作業計画表等に表す力等が挙げられる。
- ③ 学びに向かう力・人間性等については、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする態度であり、進んで技術と関わり、

主体的に技術を理解し、技能を身に付けようとする態度、自分なりの新しい考え方やとらえ方によって、解決策を構想しようとする態度、自らの問題解決及びその過程を振り返り改善・修正しようとする態度とともに、知的財産を創造・保護・活用しようとする態度や技術に関わる倫理観、他者と協働して粘り強く物事を前に進める態度等も挙げられる。

- なお、「小学校段階におけるプログラミング教育の在り方について(議論の取りまとめ)」では、自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていくことのできる力である「プログラミング的思考」などの育成を目指した「プログラミング教育」の重要性が指摘されている。前述した技術分野に求められる資質・能力に含まれるものであるが、技術分野で育成すべきプログラミング教育に関する資質・能力は以下のように整理することができる。

- ① 知識・技能については、コンピュータやネットワークの仕組みや、順次、分岐、反復といったプログラムの構造を支える要素等の理解と簡単なプログラム言語を入力・編集できる技能。また、コンピュータの役割と、生活や社会、環境に与える影響についての理解等。
- ② 思考力・判断力・表現力等については、生活や社会の中からプログラムに関わる問題を見出して、課題を設定する力、解決策をプログラミング的思考を発揮して構想する力、流れ図等に表し、試行等を通じて解決策を具体化する力等。
- ③ 学びに向かう力・人間性等については、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実にプログラミングを含めた情報に関する技術を工夫し創造しようとする態度等。

- 以上の資質・能力を児童生徒に育む視点から、家庭科、技術・家庭科においては、次のような目標に整理した。

(小学校 家庭科)

「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- ② 日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。

- ③ 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

(中学校 技術・家庭科)

「生活の営みに係る見方・考え方」や「技術の見方・考え方」を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- ② 生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- ③ よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

(中学校 技術・家庭科 技術分野)

「技術の見方・考え方」を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な学習活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を、次のとおり育成することを目指す。

- ① 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換、情報等の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- ② 生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- ③ よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

(中学校 技術・家庭科 家庭分野)

「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、これからの生活を展望し、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- ② 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。

- ③ 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

(高等学校 家庭科)

「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な年代の人と交流し相互に支え合う社会の構築に向けて、生涯を見通し、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 自立した生活者に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- ② 家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- ③ 様々な年代の人と交流し相互に支え合う社会の構築に向けて、主体的に地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度を養う。

(3) 資質・能力を育成する学びの過程の考え方

- 家庭科、技術・家庭科家庭分野で育成することを目指す資質・能力は、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせつつ、生活の中の様々な問題の中から課題を設定し、その解決を目指して解決方法を検討し、計画を立てて実践するとともに、その結果を評価・改善するという活動の中で育成できると考えられ、その学習過程を以下のように整理した。

① 生活の課題発見

この段階では、生活経験や既習の知識・技能を基に生活を見つめることを通して、生活の中から問題を見出し、解決すべき課題を設定する力を育成する。自分の生活の実態に基づいて問題を認識し、解決すべき課題について考え、課題を明確化することが求められる。

② 解決方法の検討と計画

この段階では、生活に関わる知識・技能を習得し、解決方法を検討し、解決の見通しをもって計画を立てることを通して、生活課題について多角的に捉え、解決策を構想する力を育成する。その際、他者からの意見等を踏まえて、計画を評価・修正し、最善の方法を判断・決定することが求められる。

③ 課題解決に向けた実践活動

この段階では、学習した知識・技能を活用し、調理・製作等の実習や、調査、交流活動等を通して、課題の解決に向けて実践する力を育成する。その際、知識・技能を活用することにより、その一層の定着を図ることが求められる。

④ 実践活動の評価・改善

この段階では、実践した結果等を振り返り、考察したことを発表等を通して、他者からの意見等を踏まえて改善策を検討するなど、実践活動の評価・改善する力を育成する。その際、考察したことを根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、発表したりすることが求められる。

- なお、この学習過程は、児童生徒の状況や題材構成等に応じて異なることに留意する必要がある。また、児童生徒が課題を解決できた達成感や、実践する喜びを味わい、次の学びに主体的に取り組むことができるよう、小学校においては2学年間、中学校においては3学年間を見通して計画的に位置付ける必要がある。更に、家庭や地域での実践についても一連の学習過程として位置付けることが考えられる。中学校における「生活の課題と実践」や、高等学校における「ホームプロジェクト」及び「学校家庭クラブ活動」において、学校での学習を家庭や地域で実践することにより、実生活で活用する力を育成することができる。
- 技術・家庭科技術分野の目標とする資質・能力は、単に何かをつくるという活動ではなく、「技術の見方・考え方」を働かせつつ、生活や社会における技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決方策が最適なものとなるよう設計・計画し、製作・制作・育成を行い、その解決結果や解決過程を評価・改善するという活動の中で効果的に育成できると考えられることから、その学習過程を、以下のように整理した。

① 既存の技術の理解と課題の設定

この段階では、生活で利用されている技術や、日本の伝統的な技術、さらには産業界等で利用されている先端技術が、どのような問題をどのような条件の下で解決しているのかを明らかにすることなどを通して、生活や社会を支えている技術の価値を認識し、進んで関わろうとする態度を育むとともに、技術に用いられている科学的な原理・法則を理解する。また、「技術の見方・考え方」に気付き、生活や社会の中から技術に関わる問題を見出し、それに関する調査等に基づき、現状を更に良くしたり、新しいものを生み出したりするために解決すべき課題を設定できる力を育む。

② 技術に関する科学的な理解に基づいた設計・計画

この段階では、課題の解決策を条件を踏まえて構想（設計・計画）する力、試行・試作等を通じて解決策を具体化する力を育む。その際、解決策がよりよいものとなるよう検討するために、課題の解決策の方略を製作図、流れ図、作業計画表等に表す力も必要となる。

③ 課題解決に向けた製作・制作・育成

この段階では、設計・計画に基づいて、問題を解決する方略を実現する活動（製作・制作・育成）を行う中で、加工や組み立て操作のみならず、点検や整備等も含めた技術を安全・適切に管理・運用できる技能の習得も図る。

④ 成果の評価と次の問題の解決の視点

この段階では、解決結果及び解決過程を振り返ることを通して、自らの問題解決を改善・修正する力や態度を育むとともに、新たな解決すべき問題を見いだす力も育成する。

- なお、この学習過程は、一方向に進むものではなく、生徒の学習の状況に応じて、各段階間を往来するものである。また、このような学習過程の中で、技術の概念や技術の役割と生活や社会、環境に与える影響を深く理解するとともに、知的財産を創造・保護・活用しようとする態度や、技術に関わる倫理観、他者と協働して粘り強く物事を前に進める態度等を身に付けることも期待できる。
- 各内容において生徒が見出し解決する問題については、生徒がそれを解決できたという満足感・成就感を味わい、次の学びへと主体的に取り組む態度も育めるよう、既存の技術の評価、選択、管理・運用することで解決できる問題から、改良・応用しなければ解決できない問題へと、解決に必要な資質・能力の発達の見点から3年間を見通して計画的に設定することが大切であり、この視点から学習指導要領における内容を示す順序や、各内容の指導時期等について検討する必要がある。

(4) 「目標に準拠した評価」に向けた評価の観点の在り方

- 観点別学習状況の評価の観点は、各教科等における目標と表裏一体の関係にあることから、家庭科、技術・家庭科においても評価の観点の在り方は、育成を目指す資質・能力と一貫性を持ったものに改善することが求められ、今回の改訂の趣旨を踏まえ、次のような観点を設定することとして整理した。

(小学校 家庭科)

- ① 知識・技能については、従来の観点「家庭生活についての知識・理解」と「生活の技能」を「知識・技能」と改め、日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境等に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付けているかについて評価する。
- ② 思考力・判断力・表現力等については、従来の観点「生活を創意工夫する能力」を「思考・判断・表現」と改め、日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を振り返って評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決しているかについて評価する。
- ③ 学びに向かう力・人間性等については、従来の観点「家庭生活についての関心・意欲・態度」を「主体的に学習に取り組む態度」と改め、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身に付けようとしているかや、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫し、主体的に実践しようとしているかについて評価する。なお、家庭生活を大切にする心情等、観点別評価になじまない部分については個人内評価を通じて見取ることが考えられる。

(中学校 技術・家庭科)

- ① 知識・技能については、従来の観点「生活や技術についての知識・理解」と「生活の技能」を「知識・技能」と改め、生活や技術に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、生活と技術との関わりについて理解しているかについて評価する。
- ② 思考力・判断力・表現力等については、従来の観点「生活を工夫し創造する能力」を「思考・判断・表現」と改め、生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決しているかについて評価する。
- ③ 学びに向かう力・人間性等については、従来の観点「生活や技術についての関心・意欲・態度」を「主体的に学習する態度」と改め、生活や技術に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付けようとしているか、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造し、主体的に実践しようとしているかについて評価する。

(中学校 技術・家庭科 技術分野)

- ① 知識・技能については、「知識・技能」の観点において、生活や社会で利用されている技術についての基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解しているかについて評価する。
- ② 思考力・判断力・表現力等については、「思考・判断・表現」の観点において、生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決しているかについて評価する。
- ③ 学びに向かう力・人間性等については、「主体的に学習する態度」の観点において、主体的に技術を理解し、技能を身に付けようとしているかも含めて、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとしているかについて、今後の技術に関わる問題にどのように向き合おうとしているかといった姿や心構えから評価する。

なお、技術に関わる倫理観や他者と協働して粘り強く物事を前に進める態度等についてもこの観点で評価することとなるが、使用者のことを思いやる心情といった観点別評価になじまない部分については個人内評価を通じて見取ることが考えられる。

(中学校 技術・家庭科 家庭分野)

- ① 知識・技能については、「知識・技能」の観点において、家庭の基本的な機能について理解しているか、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付けているかについて評価する。

- ② 思考力・判断力・表現力等については、「思考・判断・表現」の観点において、家族・家庭や地域の生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決しているかについて評価する。
- ③ 学びに向かう力・人間性等については、「主体的に学習する態度」の観点において、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身に付けようとしているかや、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造し、主体的に実践しようとしているかについて評価する。なお、地域の人々と関わり、協働しようとする態度等についてもこの観点で評価することとなるが、地域の人を思いやる心情等、観点別評価になじまない部分については個人内評価を通じて見取ることが考えられる。

(高等学校 家庭科)

- ① 知識・技能については、従来の観点「知識・理解」と「技能」を「知識・技能」と改め、生活を科学的に理解し、自立した生活者に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等に関する知識・技能を身に付けているかについて評価する。
- ② 思考力・判断力・表現力等については、従来の観点「思考・判断・表現」と同様であり、家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決しているかについて評価する。
- ③ 学びに向かう力・人間性等については、従来の観点「関心・意欲・態度」を「主体的に学習に取り組む態度」と改め、自立した生活者に必要な知識・技能を身に付けようとしているかや、様々な年代の人と交流し相互に支え合う社会の構築に向けて、地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造し、主体的に実践しようとしているかについて評価する。

3. 資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実

(1) 科目構成の見直し

- 高等学校家庭科においては、自立した生活者として必要な生活を科学的に理解することや、生活課題を解決する能力を育成することについて一層の充実が求められる。また、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことなども踏まえて、男女が協力して主体的に家庭を築き相互に支え合う社会の構築に向けて、家庭や地域の生活を創造しようとする態度や主体的に地域社会と関わり、参画しようとする態度を育成することが一層求められている。
- ・ 科目構成と内容

共通教科としての家庭科は、現行の「家庭基礎」（２単位）「家庭総合」（４単位）及び「生活デザイン」（４単位）の３科目から、必修科目として１科目を選択的に履修することとしてきたが、各科目の履修状況を踏まえて、現行の選択必修３科目を改め、内容を再構成し「家庭基礎（仮称）」「家庭総合（仮称）」の２科目とした。

- ・ 「家庭基礎（仮称）」では、高等学校の卒業段階において、自立した生活者として必要な実践力を育成するために、人の一生を見通して自立して生活する力、生涯の生活を設計するための意思決定力や、異なる世代と関わり共に生きる力を育成することを重視した基礎的な内容構成とする。
- ・ 「家庭総合（仮称）」では、従前の「家庭総合」や「生活デザイン」の内容を引き継ぎ、生涯を見通したライフステージごとの生活を科学的に理解させるとともに、主体的に生活を設計することや、生活文化の継承・創造等、生活の価値や質を高め豊かな生活を創造することを重視した内容構成とする。

- なお、必修科目の履修後は、生徒の特性や進路等に応じて、専門教科「家庭」の科目を選択科目として履修することが可能であり、衣食住生活や乳幼児、高齢者に関する学習をより深めることも考えられる。

（２）資質・能力の整理と学びの過程の考え方を踏まえた教育内容の示し方の改善

- 家庭科、技術・家庭科家庭分野の内容においては、２（２）で述べた三つの柱に沿った資質・能力や２（３）で述べた学習過程の在り方を踏まえて、それらの趣旨を実現するために、次の三点から示し方を改善することが求められる。
- 第一には、小・中・高等学校の内容の系統性の明確化である。児童生徒の発達の段階を踏まえ、小・中・高等学校の各内容の接続が見えるように、小・中学校においては、「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活・環境」に関する三つの枠組みに整理することが適当である。この枠組みは、２（１）で述べた「見方・考え方」も踏まえたものである。また、この枠組みに関わる知識や技能については、学校段階に応じて概念化、体系化されて身に付くことから、それぞれを適切に関連付けながら内容の示し方を改善することが考えられる。

更に、家庭や地域社会との連携を図り、学校での学習を家庭・地域における実践として生かすことに留意し、各学校段階に応じて内容を改善する。

- 第二には、空間軸と時間軸という二つの視点からの学習対象の明確化である。空間軸の視点では、学校段階に応じて、家庭、地域、社会という空間的な広がりをもって学習対象を捉えており、小学校では自己と家庭、中学校では家庭と地域、高等学校では家庭と地域、社会とのつながりや関わりから指導内容を整理することが適当である。

また、時間軸の視点では、「生涯を見通す」という時間的な広がりをもって学習対象を捉えており、小学校では自分自身の現在やこれまでの生活、中学校ではこれからの生活を

展望した現在の生活、高等学校では生涯を見通した生活（人の一生を生活の営みというライフステージで捉えること）を対象として指導内容を整理することが適当である。

なお、空間軸の視点と時間軸の視点は、相互に関連させ、学びが深まるよう配慮する必要がある。

- 第三には、学習過程を踏まえた改善である。生活の中から問題を見出し、課題を設定し、解決方法を検討し、計画、実践、評価・改善するという一連の学習過程を踏まえて基礎的な知識・技能の習得に係る内容や、それらを活用して思考力、判断力、表現力等の育成に係る内容について整理することが適当である。中学校における「生活の課題と実践」や高等学校における「ホームプロジェクト」、「学校家庭クラブ活動」は、家庭・地域における実践を2（3）で述べた一連の学習過程に位置付けて示したものである。
- 現行の技術・家庭科技術分野は、「材料と加工」、「エネルギー変換」、「生物育成」、「情報」の技術ごとに、「基礎的な知識、重要な概念等」、「技術を活用した製作・制作・育成」、「社会・環境とのかかわり」という「習得・活用・探究」に相当する内容で構成されている。今回の改訂では、これまでの構造を踏まえつつ、資質・能力や学習過程との関連を図ることが適当であり、各技術についての指導内容を以下の内容で構成することが考えられる。

① 生活や社会を支える技術

生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換、情報等の技術の仕組みや役割、現在に至るまでの技術の進展等を、科学的に理解することで、問題の解決に必要な「技術の見方・考え方」に気付き、課題を解決するために必要となる知識・技能を習得させる内容である。ここでは、身の回りの製品等に利用されている技術や日本の伝統的な技術、更には産業界等で利用されている先端技術の仕組みを調べることを通して、技術と生活や社会、環境との関わりについての理解と共に技術と進んで関わろうとする態度の育成も期待できる。この内容は、「技術による問題解決」の基礎となることから、学習過程のうち、主に「既存の技術の理解と課題の設定」の段階で扱うこととする。

② 技術による問題解決

①で習得した知識・技能を活用して、生活や社会における技術に関わる問題を解決することで、理解の深化や技能の習熟を図るとともに、技術によって問題を解決できる力や技術を工夫し創造しようとする態度を育成する内容である。ここでは、各内容に応じた知識や技能に関する確かな習得とともに、「技術の見方・考え方」を働かせて、生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力や自分なりの新しい考え方やとらえ方によって、解決策を構想しようとする態度等を育むことが期待できる。この内容は、学習過程の四つ全ての段階を通して、適切に扱うこととする。

③ 社会の発展と技術

①や②での学習を通した自らの問題解決の結果と過程を振り返ることで、身に付けた「技術の見方・考え方」に沿って生活や社会を広く見つめなおす内容である。ここでは、自分なりの新しい考え方やとらえ方によって、技術の役割や影響を評価し、将来への技術の活用について考えることのできる力や態度を育むとともに、技術についての概念を深く理解することが期待できる。この内容は、学習過程のうち、主に「成果の評価と次の問題の解決の視点」の段階で扱うこととする。

- なお、技術に関する教育を体系的に行うために、第1学年の最初に扱う技術の「①生活や社会を支える技術」は、小学校での学習を踏まえた中学校での学習のガイダンス的な内容としても指導する。また、教科目標の実現に向け、高等学校との関連を踏まえるとともに、現代社会で活用されている多くの技術が、システム化されている実態に対応するために、第3学年で取り上げる技術の「②技術による問題解決」では、他の内容の技術も含めた統合的な問題について取り扱うこととする。

（３）現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直し

- 今後の社会を担う子供たちには、グローバル化、少子高齢化、持続可能な社会の構築等の現代的な諸課題を適切に解決できる能力が求められることから、家庭科、技術・家庭科においては、次のような教育内容の見直しを図ることが必要である。

（小学校 家庭科）

- 小学校家庭科については、「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活・環境」に関する三つの内容で構成する。家族の一員として、家庭の仕事に協力するなど家庭生活を大切にする心情を育むための学習活動や、家族や地域の異世代の人々と関わるなど、人とよりよく関わる力を育成するための学習活動を充実する。
- 食育を一層推進するための食事の役割や栄養・調理に関する学習活動を充実する。また、消費生活や環境に配慮した生活の仕方に関する内容を充実するとともに、他の内容との関連を図り、実践的な学習活動を一層充実する。更に、主として衣食住の生活において日本の生活文化の大切さに気付く学習活動を充実する。
- 学習した知識・技能を実生活で活用するために、問題解決的な学習を一層充実するとともに、家庭や地域と連携を図った生活の課題と実践に関する指導事項を設定することが考えられる。
- 生活の科学的な理解を深め、生活の自立の基礎を培う基礎的な技能の習得を図るために、実践的・体験的な学習活動を一層重視するとともに、知識・技能を確実に身に付けるために、一部の題材を指定することも考えられる。

（中学校 技術・家庭科 技術分野）

- 技術・家庭科技術分野については、生活や社会において様々な技術が複合して利用されている現状を踏まえ、材料、加工、生物育成、エネルギー変換、情報等の専門分野における重要な概念等を基にした教育内容とする。

なお、急速な発達を遂げている情報の技術に関しては、情報セキュリティ等の安全に情報及び情報技術を利用するために必要な資質・能力や、これらを活用して多様化する課題に創造的に取り組む資質・能力の育成を重視するとともに、小学校において、新たに実施されるプログラミング教育を発展させる内容とする必要がある。

小学校においては、定められた動きをくりかえすプログラムを作成するなど、コンピュータに意図した処理を行うように指示することができるということを体験させながら、プログラミング的思考等を育成することが想定されている。これを受け、中学校技術・家庭科技術分野においては、従前の計測・制御に加えて、入力情報により異なる表示・動作をするといった動的双方向性をもたせ、複数種類の情報を組み合わせて処理するといった動的コンテンツに関するプログラミングや、ネットワークやデータを活用して処理するプログラミングを題材として扱うことが適当である。

- また、高度に発達した技術の成果を享受し豊かに生活できることだけでなく、技術の発達を支え、技術改革を牽引するために必要な資質・能力を育成する視点から、知的財産を創造・保護・活用していこうとする態度や使用者・生産者の安全に配慮して設計・製作したりするなどの倫理観の育成を重視する。併せて、技術の高度化とそれに伴うグローバル化や、産業構造の転換等の社会の変化を踏まえ、我が国に根付いているものづくりの文化や伝統的な技術の継承、技術革新及びそれを担う職業・産業への関心、経済的主体等として求められる働くことの意義の理解、他者と協働して粘り強く物事を前に進めること、安全な生活や社会づくりに貢献しようとすることも重視する。

(中学校 技術・家庭科 家庭分野)

- 技術・家庭科家庭分野については、「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活・環境」に関する三つの内容で構成する。家庭の機能を理解し、家族や地域の人々と協働することや、幼児触れ合い体験、高齢者との交流等、人とよりよく関わる力を育成するための学習活動や、幼児触れ合い体験、高齢者との交流等に関する学習活動を一層充実する。
- 食育を一層推進するための中学生の栄養と献立、調理や食文化などに関する学習活動を充実する。また、金銭の管理に関する内容や、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎となる内容を充実するとともに、他の内容との関連を図り、実践的な学習活動を一層充実する。更に、主として衣食住の生活において日本の生活文化を継承する学習活動を充実する。
- 生活の科学的な理解を深め、生活の自立を促す基礎的な技能の習得を図るために、実践的・体験的な学習活動をより一層重視する。また、学習した知識・技能を実生活で活用す

るために、問題解決的な学習を一層充実するとともに、家庭や地域社会と連携を図った生活の課題と実践に関する内容を充実する。

(高等学校 家庭科)

- 高等学校家庭科の教育内容については、少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進等に対応し、男女が協力して主体的に家庭を築いていくことや親の役割と子育て支援等の理解、高齢者の理解、生涯の生活を設計するための意思決定や消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定、健康な食生活の実践、日本の生活文化の継承・創造等に関する学習を充実する。また、生活の科学的な理解を深め、生活の自立に向けて主体的に活用できる技能の習得を図るために、実践的・体験的な学習活動を重視する。更に、これらの学習により身に付けた知識・技能を活用して、「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実する。
- これらのことを踏まえ、「家庭基礎（仮称）」では、子供を生み育てることや子供と関わる力を身に付けるなどの乳児期に関する内容や、高齢社会を支えるために必要な高齢者の生活支援技術の基礎に関する内容を充実する。また、自立した生活者として必要な衣食住の生活や生活における経済の計画などの実践力の定着や、生涯の生活を設計するための意思決定能力や消費・環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定能力の育成を図る学習活動を一層充実する。
- 「家庭総合（仮称）」では、少子高齢社会を支える実践力を育成するために、乳児との触れ合いや子供とのコミュニケーションに関する内容、高齢者の理解や生活支援技術等に関する内容、グローバル化に対応した日本の生活文化に関する内容を充実する。また、生活を総合的にマネジメントできるように、健康や安全等を考慮するとともに生活の価値や質を高める豊かな衣食住生活を創造する実践力、生活経済、生涯の生活を設計するための意思決定能力、消費・環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定能力の育成を図る学習活動を一層充実する。

なお、4単位科目とすることが想定されていることから、問題解決的な学習を進めるための調査・研究、観察・見学、交流活動等の実践的・体験的な学習の一層の充実を図る。

4. 学習・指導の改善充実や教材の充実

- 家庭科、技術・家庭科の教育がより充実したものとなるよう、以下の方向からの改善の検討が必要である。

(1) 特別支援教育の充実、個に応じた学習の充実

(特別支援教育の充実)

○ 家庭科、技術・家庭科における調理や製作、コンピュータ操作などの実習等の指導においては、運動・動作の障害に応じた道具や機器を用意するといった配慮だけではなく、学習意欲が高まるような評価方法の工夫等が必要である。また、各内容及び学習過程の段階における「困難さの状態」に対する「配慮の意図」と「手立て」を示していく必要がある。具体的には、以下のようなことが考えられる。

- ・ 学習に集中したり、持続したりすることが難しい場合、学習への意欲（興味・関心）を喚起するように学習環境を整理・整頓することや活動のルールや手順を視覚的に明示すること、見る、触るなど、体感することができる教材・教具を活用すること、こまめに努力を認める声かけをすること、スモールステップによる学習、ペアやグループでの学び合い等学習方法を工夫することなどが考えられる。
- ・ 同時に複数の事項に注意を向けることが難しい場合、優先順位が分かるように、活動の区切りを短く設けて同時に行う事項を減らしたり、視覚的な補助（指示事項や留意すべき事項を示したカード等）を用いたりすることなどが考えられる。
- ・ 周囲の状況に気が散りやすく、包丁、アイロン、ミシン等の用具、加工工具や電動加工機器等を安全に使用することが難しい場合、手元に集中して安全に作業に取り組めるように、個別の対応ができるような作業スペースや作業時間を確保することなどが考えられる。
- ・ 生徒が自分で設計・計画を考案することが難しい場合は、生徒が考えやすいように、教員があらかじめ用意した幾つかの設計・計画から生徒が選べるようにし、一部を自分なりに改良できるようにするなど、難易度の調整や段階的な指導に関する配慮をする。また、図を用いた設計の場面において、立体を平面に書き換えることが難しい場合には、形や奥行きなどを捉えやすくするソフトウェア等を用いることなどが考えられる。

（個に応じた指導の充実）

○ 家庭科、技術・家庭科における調理や製作等の実習、観察・実験などの指導において、児童生徒の生活経験の不足などから、確実な技能の習得を図るためには、個に応じた指導を充実する必要がある、ティームティーチングによる指導や、少人数による指導などの配慮が必要である。

また、児童生徒の願いや思いを生かして設計・計画させることで、より創造的な解決策が発想されることから、児童生徒の個性を生かす視点も個に応じた指導を充実する際には必要である。

（２）「主体的・対話的で深い学び」の実現

○ 家庭科、技術・家庭科家庭分野においては、従前より、実践的・体験的な学習活動を通して、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、児童生徒が学習の中で習得した知識や技能を活用し、実生活での実践につながる問題解決的な学習を重視してきた。

ここでは、「主体的・対話的で深い学び」を以下のように捉え、その充実を図る必要がある。

- ・ 「主体的な学び」とは、児童生徒が学習に興味を持ち、現在及び生涯を見通した生活課題の解決に向けて、主体的・協働的に課題の発見や解決に取り組むとともに、学習の過程を振り返って、次の学習に主体的に取り組む態度を育む学びである。そのため、学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定し、自分の生活が家庭や地域社会と深く関わっていることを認識したり、自分が社会に参画し貢献できる存在であることに気付いたりする活動に取り組むことなどが考えられる。
- ・ 「対話的な学び」とは、他者との会話を通して考えを明確にしたり、他者と意見を共有して互いの考えを深めたり、他者と協働したりするなど、自らの考えを広げ深める学びである。そのため、例えば、グループ活動やペア学習、討議、ディベート、ロールプレイング等の学習活動を効果的に取り入れることが考えられる。
- ・ 「深い学び」とは、児童生徒が、生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価、改善という一連の学習過程の中で、生活に係る知識や技能を活用し、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりするなど、学習内容の深い理解や生活を工夫し創造する資質・能力の育成につながる学びであると考えられる。このような問題解決的な学習を繰り返すことで、様々な生活事象に係る事實的知識が概念的知識として質的に高まったり、主体的に活用できる技能の習得・熟達（定着）が図られたりすると考えられる。そのため、学んだ知識を既存の知識や生活体験等と関連付けて考え、自分の生活に活用できる新たな知識として価値付ける活動などを取り入れる必要がある。

○ 技術・家庭科技術分野においては、「主体的・対話的で深い学び」を以下のように捉え、その充実を図る必要がある。

- ・ 「主体的な学び」とは、学習に積極的に取り組ませるだけでなく、学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む学びである。技術分野においては、教員が与えた設計・計画に基づいて画一的に製作・制作・育成に取り組むのではなく、問題発見や課題の設定を重視した設計・計画によって、生徒たちが見通しをもって粘り強く解決活動に取り組むことが大切である。更に、学習過程の最後の段階である「成果の評価と次の問題の解決の視点」だけでなく、各段階において、学習過程を振り返る活動を充実させ、次の段階の学習や、次の問題の解決につなげることが、生徒が自らの成長を自覚し、主体的に学習に取り組む態度を育む学びとなる。
- ・ 「対話的な学び」とは、他者との協働や対話などを通じて、自らの考えを広げ深める学びである。技術分野においては、生徒同士の相談活動や学び合い、教員や学校外の人材、関係機関などとの対話や協働などが対話的な学びとなる。また、直接、他者との対

話を伴わなくとも、既製品の分解等の活動を通してその技術の開発者が設計に込めた意図を読み取るといったことなども自らの考えを広げ深める学びとなる。

- ・ 「深い学び」とは、生徒が習得・活用・探究を見通した学習過程の中で「技術の見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現し、資質・能力を獲得する学びである。技術分野においては、「より便利に」、「より安全に」、「より環境に優しく」、「より安価に」といった視点で生活や社会の中から技術により解決すべき問題を見出して課題を設定し、「使い手」だけでなく「作り手」の立場で、そして、「作る場面」、「使う場面」、「廃棄する場面」、「万が一のトラブルの場面」等を想定しつつ、「材料の形状」や「生物の育成環境の調整方法」「エネルギーの伝達方法」「情報のデジタル化の方法」等の最適化について考え、解決策を具体化し、解決活動（製作・制作・育成）を行い、更に、その解決結果や過程を振り返って評価していくことなどが、深い学びとなる。そして、このような学びを、技術分野の四つの内容において繰り返していく中で、特定の技術に関する知識が他と関連付けられ定着し、理解の深化や技能の習熟・熟達を図られる。また、このような学びの中での以下に示す「対話的な学び」や「主体的な学び」を充実させることで、技術分野が目指す思考力・判断力・表現力等が豊かなものとなり、より複雑な技術に関わる問題を解決できる力、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築していこうとする態度の育成にも繋がるのである。

（３）教材の在り方

- 家庭科、技術・家庭科家庭分野においては、生活事象の原理・原則を科学的に理解するための指導や学習の見通しをもたせる指導、個に応じた指導、児童生徒の協働的な学びを推進するための指導において、ＩＣＴの活用を充実する。
また、実感を伴った理解を深めるために、実際に見たり、触れたりすることができる実物や標本、乳幼児触れ合い体験や高齢者疑似体験等に必要な教材を充実する必要がある。
- 更に、実習・実験における用具（ミシンなど）等は、安全の確保や作業の能率、事故防止にも大きく影響することから、児童生徒数に応じた適切な個数を確保するなど学習環境を整備する必要がある。
- 技術・家庭科技術分野においては、各内容に応じた教材の整備について検討することが求められる。具体的には、「情報に関する技術」について、社会において利用されている情報端末や、計測・制御されている機器等の発達に対応する視点から、授業で用いる情報端末及び模型等の計測・制御用機器を選定したり、プログラミングに関する内容の充実に対応し、必要な機能をもったプログラムの開発環境を整備したりすることなどが考えられる。
- また、学習過程に応じて必要となる教材の整備として、例えば「既存の技術の理解と課題の設定」の段階において、生活や社会を支えている技術が、どのように問題を解決してきたのか、どのような「見方・考え方」が用いられているのかなどに気付かせる活動を行うために必要となる、分解用の機器等を適切に整備したり、「技術に関する科学的な理解

に基づいた設計・計画」の段階において、生徒の実態に応じて適切な設計ができるよう、3DCADや3Dプリンタ等、モデル(又はプロトタイプ)を設計・試作するための教材を必要に応じて整備したりすることについても検討することが考えられる。

5. 必要な条件整備等について

- 全ての学校で質の高い家庭科、技術・家庭科を進めることができるよう、以下の点についてすることが求められる。

(1) 他の教科等との連携（カリキュラム・マネジメント）

- 家庭科、技術・家庭科家庭分野における関連する教科・科目等との連携については、例えば、以下のような事項に配慮することが求められる。
 - ・ 他教科等で行う実践的・体験的な学習とどのように関連を図ることができるのか、指導の時期等について検討する必要がある。
 - ・ 食育の推進については、小学校においては、低学年・中学年における生活科や体育科、特別活動や道徳、総合的な学習の時間等における学習や、高学年の他教科等の学習を踏まえ、それぞれの特質に応じた連携の在り方について検討する必要がある。また、中学校においては、小学校における学習を踏まえ、他教科等との連携を図る必要がある。また、給食の時間における食に関する指導と関連を図る必要がある。
 - ・ 消費生活、環境、伝統文化、防災等、教科横断的に取り上げられる教育に関して、特別活動、総合的な学習の時間等、関係する教科等とそれぞれの特質に応じた連携の在り方について検討する必要がある。なお、校外での学習活動における児童生徒及び乳幼児・高齢者等の安全を確保するための指導体制の充実についても検討する必要がある。
- 乳幼児との触れ合いや高齢者との交流、地域の食文化の理解、継承のための実践、地域の課題等に取り組むためには、幼稚園や保育所等、高齢者施設、公民館、消費生活センター等の地域の関係機関や人材との連携を積極的に図ることが求められることから、その円滑な支援の在り方について検討する必要がある。
- 小学校家庭科及び技術・家庭科家庭分野においては、実習等の安全の確保や実習室等の環境の整備と管理のため、専門性の高い教員による指導が必要である。例えば、小学校においては、教科担任制による指導や校区の中学校の家庭分野担当教員と学級担任による指導を行うことなどが考えられる。また、小・中学校ともに、知識・技能の確実な習得を図るために、実習等について少人数による指導を行うことも考えられる。
- 技術・家庭科技術分野においては、特に、小学校・高等学校における関連する教科・科目等との縦の連携について、例えば、以下のような事項に配慮することが求められる。

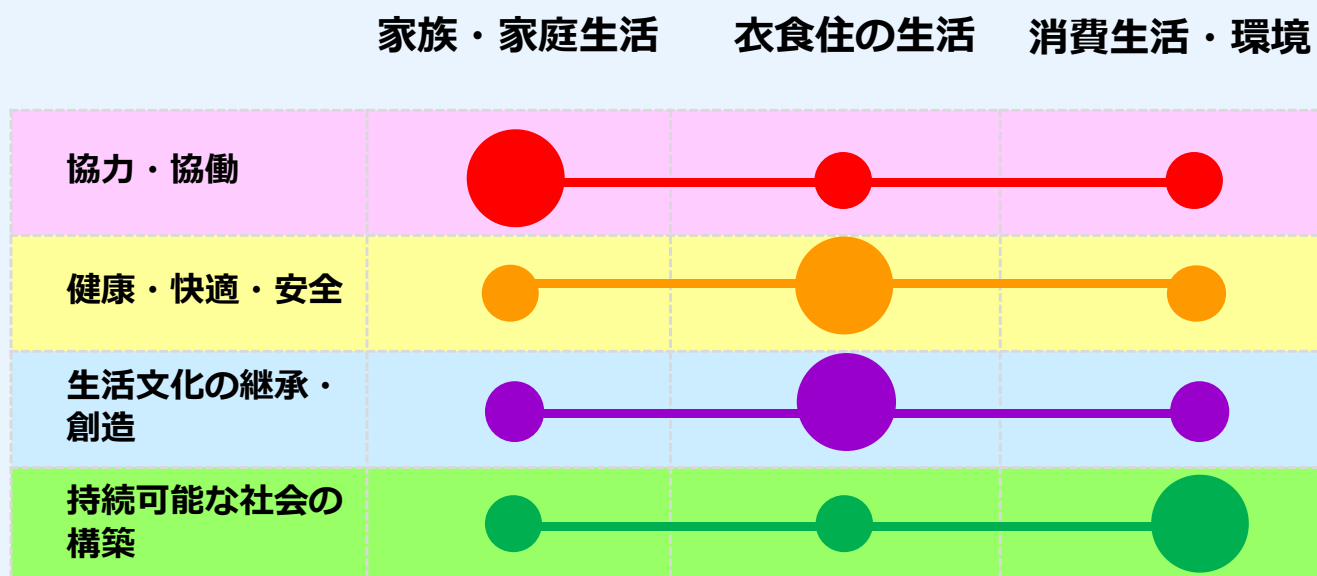
- ・ 小学校の図画工作科における道具の操作に関する技能や様々な材料に触れる体験、工夫して製作する力、理科における技術に関係する科学的な原理・法則の知識、全ての教科におけるコンピュータ等の基本的な操作技能、生活科、図画工作科、特別活動、総合的な学習の時間におけるものづくりや作物の栽培経験等、技術分野における問題の解決に必要な知識・技能の習得状況や生徒の興味・関心の方向性等を考慮し、技術分野で取り上げる題材を検討する必要がある。
 - ・ 技術分野の各内容における学習が、高等学校の共通教科情報や、職業に関する科目等の学習へと繋がることを意識させる指導を検討する必要がある。
- 他教科等との連携について、例えば、以下のような事項に配慮することが求められる。
- ・ 数学科における投影図と製作図、理科における電気・運動の内容とエネルギー変換における設計等、技術分野における問題の解決に必要な知識・技能の他教科の指導の状況を踏まえて、技術分野の関係する内容の指導時期等を検討する必要がある。
 - ・ 持続可能な開発のための教育（E S D）や、環境保全、安全、伝統文化等、教科横断的に取り上げられる教育に関しては、理科、社会、総合的な学習の時間等、関係する教科等とそれぞれの特質に応じた連携の在り方について検討する必要がある。
- また、技術分野の内容に応じて、工業試験場や農業試験場、民間企業、博物館や科学館、関連する分野の専門高校等との連携について検討することが求められる。
- 他の教科等の連携に関しては、互いの教科の目標や資質・能力の育成を考慮した上で、近年の科学、技術、工学、数学等の分野を総合的に取り扱ったS T E M教育の例のように、科学技術の発達に総合的に対応できる資質・能力を育成する観点から、技術分野で育成された資質・能力を、関連する教科等において活用するといった機会の設定について検討する必要がある。

（２）教員の資質向上

- 指導対象である生活や技術が変化し続けるという家庭科、技術・家庭科の特質を踏まえ、教員が常に新たな情報を入手し、教材研究や指導力向上を図ることができる研修の充実が求められる。
- その際、各地における教員の実態に応じて研修内容等を検討するとともに、研修による負担増を避けるための教育研究会等との連携や、専門的で実践的な研修とするための専門高校や大学、企業等との連携等も求められる。

○家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

自立し共に生きる生活の創造



※主として捉える視点については、大きい丸で示している。
取り上げる内容や題材構成等により、どの視点を重視するのは異なる。

技術・家庭科（技術分野）の技術の見方・考え方の整理

資料1-2

技術分野の見方・考え方:技術によって問題を発見・解決する際の見方・考え方

	見方・考え方
技術分野	生活や社会における事象を, 技術との関わりの視点で捉え, 社会からの要求, 安全性, 環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること。
材料と加工の技術	生活や社会における事象を, 材料の技術との関わりの視点で捉え, 社会からの要求, 使用時の安全性, 耐久性や機能, 生産効率, 環境への負荷, 資源の有限性, 費用等に着目し, 材料の組織や特性にも配慮し, 製造方法等を最適化すること。
	生活や社会における事象を, 加工の技術との関わりの視点で捉え, 社会からの要求, 使用時の安全性, 耐久性や機能, 生産効率, 環境への負荷, 資源の有限性, 費用等に着目し, 構造, 加工の特性にも配慮し, 必要な形状・寸法への成形方法等を最適化すること。
生物育成の技術	生活や社会における事象を, 生物育成の技術との関わりの視点で捉え, 社会からの要求, 使用時や消費する際の安全性, 生産のしくみ, 環境への負荷, 品質・収量等の効率面, 生命倫理, 費用等に着目し, 育成する生物の成長, はたらき, 生態の特性にも配慮し, 育成環境の調節方法等を最適化すること。
エネルギー変換の技術	生活や社会における事象を, エネルギー変換の技術との関わりの視点で捉え, 社会からの要求, 使用時の安全性, 出力, 環境への負荷, 省エネルギー, 費用等に着目し, 電気, 運動, 物質の流れ, 熱の特性にも配慮し, エネルギーの変換, 伝達, 利用する方法等を最適化すること。
情報の技術	生活や社会における事象を, 情報の技術との関わりの視点で捉え, 社会からの要求, 使用時の安全性, 情報の倫理やセキュリティ, 活用, 管理, システム, 費用等に着目し, 情報の表現, 記録, 計算, 通信等の特性にも配慮し, 情報のデジタル化や処理の自動化, システム化等による処理の方法等を最適化すること。

家庭科、技術・家庭科（家庭分野）において育成を目指す資質・能力の整理

資料2-1

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
家庭 高等学校 (共通教科)	自立した生活者に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解と技能 ・家族・家庭についての理解 ・乳幼児の子育て支援等や高齢者の生活支援等についての理解と技能 ・生涯の生活設計についての理解 ・各ライフステージに対応した衣食住についての理解と技能 ・生活における経済の計画、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立についての理解と技能	家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、生涯を見通して課題を解決する力 ・家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出し、課題を設定する力 ・生活課題について他の生活事象と関連付け、生涯を見通して多角的に捉え、解決策を構想する力 ・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして論理的に表現する力 ・他者の立場を考え、多様な意見や価値観を取り入れ、計画・実践等について評価・改善する力	相互に支え合う社会の構築に向けて、主体的に地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度 ・男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造しようとする態度 ・様々な年代の人とコミュニケーションを図り、主体的に地域社会に参画しようとする態度 ・生活を楽しみ味わい、豊かさを創造しようとする態度 ・日本の生活文化を継承・創造しようとする態度 ・自己のライフスタイルの実現に向けて、将来の家庭生活や職業生活を見通して学習に取り組もうとする態度
技術・家庭 中学校	生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解と技能 ・家庭の基本的な機能及び家族についての理解 ・幼児、高齢者についての理解と技能 ・生活の自立に必要な衣食住についての理解と技能 ・消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立についての基礎的な理解と技能	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、これからの生活を展望して課題を解決する力 ・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出し、課題を設定する力 ・生活課題について他の生活事象と関連付け、これからの生活を展望して多角的に捉え、解決策を構想する力 ・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを根拠や理由を明確にして論理的に表現する力 ・他者の意見を聞き、自分の意見との相違点や共通点を踏まえ、計画・実践等について評価・改善する力	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度 ・家庭生活を支える一員として生活をよりよくしようとする態度 ・地域の人々と関わり、協働しようとする態度 ・生活を楽しみ、豊かさを味わおうとする態度 ・日本の生活文化を継承しようとする態度 ・将来の家庭生活や職業との関わりを見通して学習に取り組もうとする態度
家庭 小学校	日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解と技能 ・家庭生活と家族についての理解 ・生活の自立の基礎として必要な衣食住についての理解と技能 ・消費生活や環境に配慮した生活の仕方についての理解と技能	日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、課題を解決する力 ・日常生活の中から問題を見出し、課題を設定する力 ・生活課題について自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を構想する力 ・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを根拠や理由を明確にしてわかりやすく表現する力 ・他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えをわかりやすく伝えたりして計画・実践等について評価・改善する力	家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度 ・家庭生活を大切にする心情 ・家族や地域の人々と関わり、協力しようとする態度 ・生活を楽しもうとする態度 ・日本の生活文化を大切にしようとする態度

家庭科、技術・家庭科(家庭分野)における思考力・判断力、表現力等の育成イメージ

①生活の中から問題を見出し、解決すべき課題を設定する力

- ・ 家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出し、課題を設定できる。
- ・ 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出し、課題を設定できる。
- ・ 日常生活の中から問題を見出し、課題を設定できる。

②生活課題について多角的に捉え、解決策を構想する力

- ・ 生活課題について他の生活事象と関連付け、生涯を見通して多角的に捉え、解決方法を検討し、計画、立案できる。
- ・ 生活課題について他の生活事象と関連付け、これからの生活を展望して多角的に捉え、解決方法を検討し、計画、立案できる。
- ・ 生活課題について自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を考え、計画できる。

③実習や観察・実験の結果等について、考察したことを表現する力

- ・ 実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、発表したりできる。
- ・ 実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、発表したりできる。
- ・ 実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを根拠や理由を明確にしてわかりやすく説明したり、発表したりできる。

④他者と意見交流し、実践等について評価・改善する力

- ・ 他者の立場を考え、多様な意見や価値観を取り入れ、計画・実践等について評価・改善できる。
- ・ 他者の意見を聞き、自分の意見との相違点や共通点を踏まえ、計画・実践等について評価・改善できる。
- ・ 他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えをわかりやすく伝えたりして計画・実践等について評価・改善できる。

※ 上 : 主に高等学校段階
 中央 : 主に中学校段階
 下 : 主に小学校段階

技術・家庭科（技術分野）において育成を目指す資質・能力の整理

資料2-2

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
高等学校	-----	-----	-----
中学校	○生活や社会で利用されている材料，加工，生物育成，エネルギー変換，情報等の技術についての基礎的な理解と技能及び，技術と生活や社会との関わりの理解 ・技術に用いられている科学的な原理・法則の理解 ・技術を安全・適切に管理・運用できる技能 ・技術の概念の理解 ・技術の役割と，生活や社会，環境に与える影響についての理解	○生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し，解決策を構想し，製作図等に表現し，試作等を通じて具体化し，実践を評価・改善するなど，課題を解決する力 ・生活や社会の中から技術に関わる問題を見出し，解決すべき課題を設定する力 ・課題の解決策を条件を踏まえて構想（設計・計画）する力 ・課題の解決策を製作図，流れ図，作業計画表等に表す力 ・試行・試作等を通じて解決策を具体化する力 ・課題の解決結果及び解決過程を評価し改善・修正する力	○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度 ・進んで技術と関わり，主体的に技術を理解し，技能を身に付けようとする態度 ・自分なりの新しい考え方やとらえ方によって，解決策を構想しようとする態度 ・自らの問題解決とその過程を振り返り，改善・修正しようとする態度 ・知的財産を創造・保護・活用しようとする態度，技術に関わる倫理観，他者と協働して粘り強く物事を前に進める態度
小学校	-----	-----	-----

空間軸

時間軸

社会

生涯を見通した生活

地域

これからの生活

家庭

現在・これまでの生活

【高等学校】 共通教科

- ◎生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な年代の人と交流し相互に支え合う社会の構築に向けて、生涯を見通し、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ①自立した生活者に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- ②家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- ③様々な年代の人と交流し相互に支え合う社会の構築に向けて、主体的に地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度を養う。
- 「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。
- ◇ 少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に対応し、子育て支援等の理解、高齢者の理解、生涯の生活設計、消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定、健康な食生活の実践、日本の生活文化の継承・創造等に関する学習を充実する。

【中学校】

- ◎生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、これからの生活を展望し、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ①家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- ②家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- ③自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
- 家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。
- ◇ 少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に対応し、家庭の機能の理解や、幼児、高齢者との交流等、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎、食事の役割や栄養・調理、日本の生活文化の継承等に関する学習を充実する。

【小学校(高学年)】

- ◎生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ①日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- ②日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
- ③家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。
- 家庭や地域との連携を図り、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。
- ◇ 少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に対応し、家庭生活と家族の大切さ等、消費生活や環境に配慮した生活の仕方、食事の役割や栄養・調理の基礎、日本の生活文化の大切さに気付く学習を充実する。

【小学校(低・中学年)】(※現行学習指導要領をもとに作成)

- 基本的な生活習慣や生活技能、身近な人々との接し方(家族や地域の様々な人々)、成長への喜び・成長を支えてくれた人々への感謝等(生活科)
- 健康によい生活についての理解(健康に過ごすための明るさの調節や換気などの生活環境)、体の発育・発達についての理解(体をよりよく発育・発達させるための調和のとれた食事)(体育科)
- 日常の生活や学習への適応及び健康・安全(基本的な生活習慣の形成、食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成等)(特別活動)
- 節度・節制(基本的な生活習慣、節度ある生活)、家族愛、家庭生活の充実等(道徳) 等

【幼児教育】(※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるものを記述)

- 幼稚園生活の中で充実感や満足感を持って自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせながら取り組み、見通しを持って自ら健康で安全な生活を作り出していけるようになる。
- 家族を大切にしようとする気持ちを持ちつつ、いろいろな人と関わりながら、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に一層の親しみを持つようになる。
- 身近な環境に主体的に関わりいろいろな活動や遊びを生み出す中で、自分の力で行うために思い巡らしなどして、自分でしなければならないことを自覚して行い、諦めずにやり遂げることで満足感や達成感を味わいながら、自信を持って行動するようになる。

技術・家庭科（技術分野）における教育のイメージ

資料3-2

技術で問題解決をする範囲と影響を及ぼす範囲
社会全体・地球環境・未来

生活範囲・地域環境・現在

※技術をまずは
見つける

【高等学校】

（情報の共通必修科目）

○情報や情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方を育てる

①情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決するための方法と情報社会についての理解と、情報技術を適切に活用するための技能を養う

②問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う

③情報を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度を養う

（職業に関する各教科・科目）

○各職業分野に関する知識と技術を習得させるとともに、各職業の社会的意義や役割を理解させる。

○各職業分野に関する課題（求められる職業能力の高度化、持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化等への対応）を発見し、職業人としての倫理観をもって、合理的かつ創造的に解決する能力を育成する。

○職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。

【中学校 技術・家庭科】

◎生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

①生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。

②生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。

③よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

【中学校】

◎技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な学習活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を、次のとおり育成することを目指す。

①生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換、情報等の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。

②生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。

③よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

●生活や社会における問題を見出し課題を設定した上で、解決策が最適なものとなるよう設計・計画し、製作・制作・育成を行うとともに、解決結果・解決過程を評価・改善する学習活動を充実する。

◇プログラミングに関する内容を充実するとともに、技術の高度化とそれに伴うグローバル化や、産業構造の転換等の社会の変化を踏まえ、知的財産を創造・保護・活用していこうとする態度、使用者・生産者の安全に配慮して設計・製作したりするなどの倫理観、ものづくりや日本の伝統的な技術、技術革新及びそれを担う職業・産業への関心、生産などの経済的主体等として求められる働くことの意義の理解や、他者と協働して粘り強く物事を前に進める態度、安全な生活や社会づくりへの貢献等に関する学習を重視する。

【小学校】（※現行学習指導要領等をもとに作成）

○身近な生活でコンピュータが活用されていることや問題の解決には必要な手順があることに気づき、基礎的なプログラミング的思考を身に付け、コンピュータの働きを自分の生活に生かそうとする。（総則）

○手や体全体の感覚等を働かせ、経験を活かしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫する（図画工作）

○身近にある物を使って、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、そのおもしろさに気づく（生活）

○ものづくりの活動を通して、自然の事物・現象の性質や働き、規則性についての実感を伴った理解を図る（理科）

○道徳の内容との関連を踏まえた情報モラルに関する指導（道徳）等

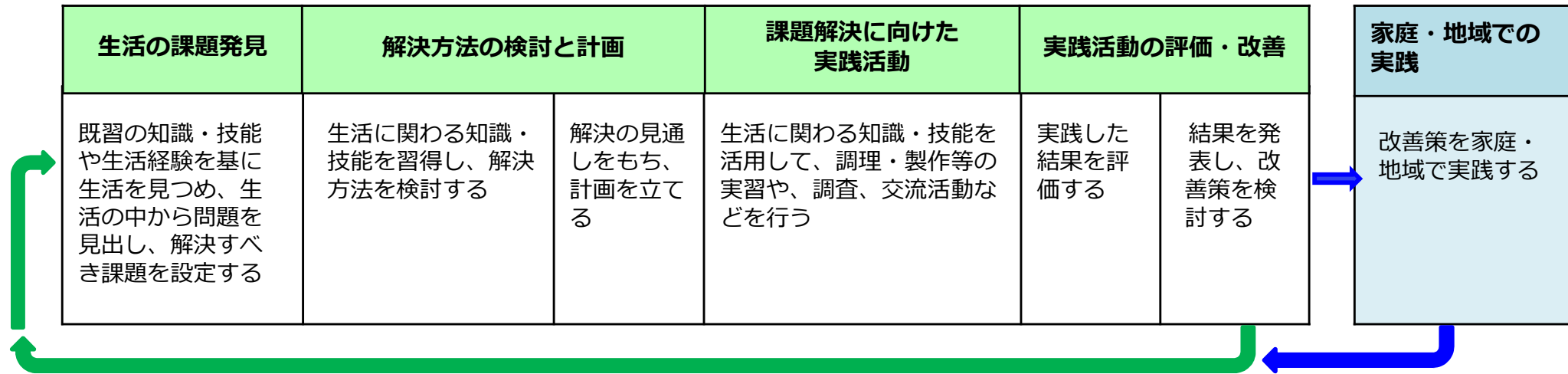
【幼児教育】（※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるものを記述）

○身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとして考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにしようとする。

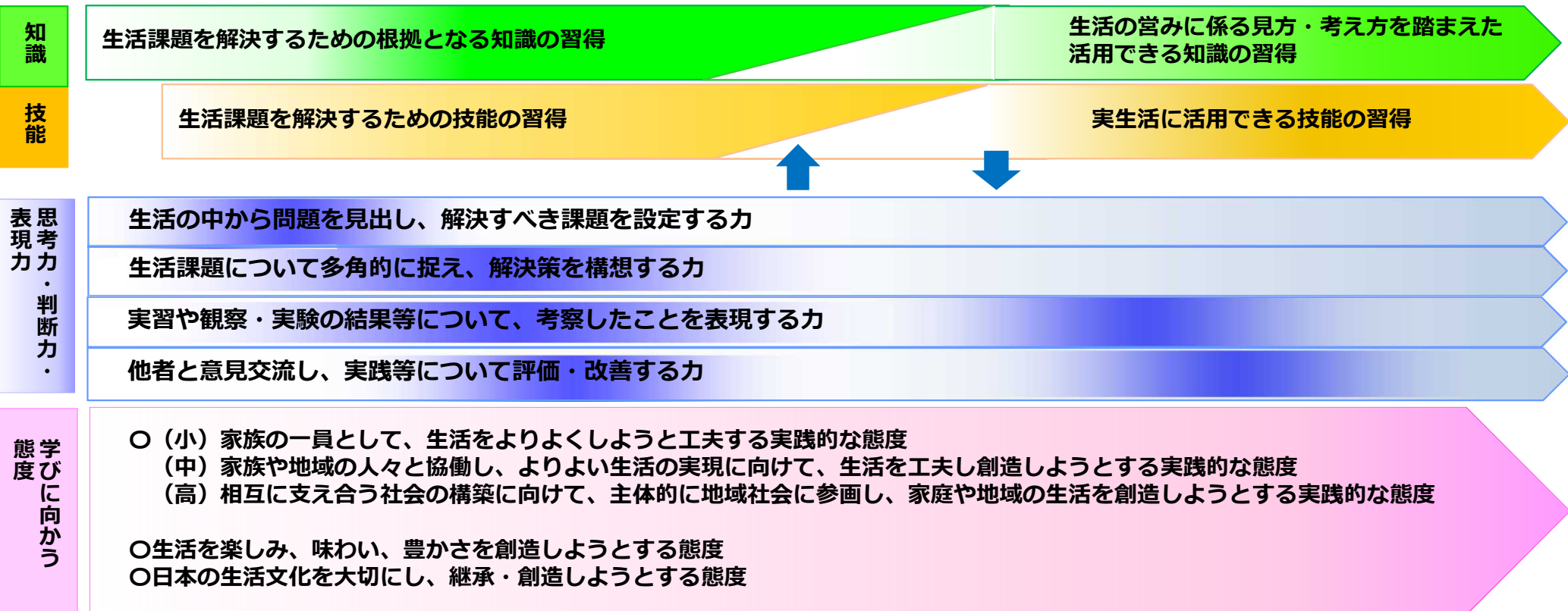
○遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報を伝え合ったり、活用したり、情報に基づき判断しようとしていたりして、情報を取捨選択などして役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用したりなどして、社会とのつながりの意識等が芽生えるようになる。

家庭科，技術・家庭科(家庭分野)の学習過程のイメージ

資料4-1



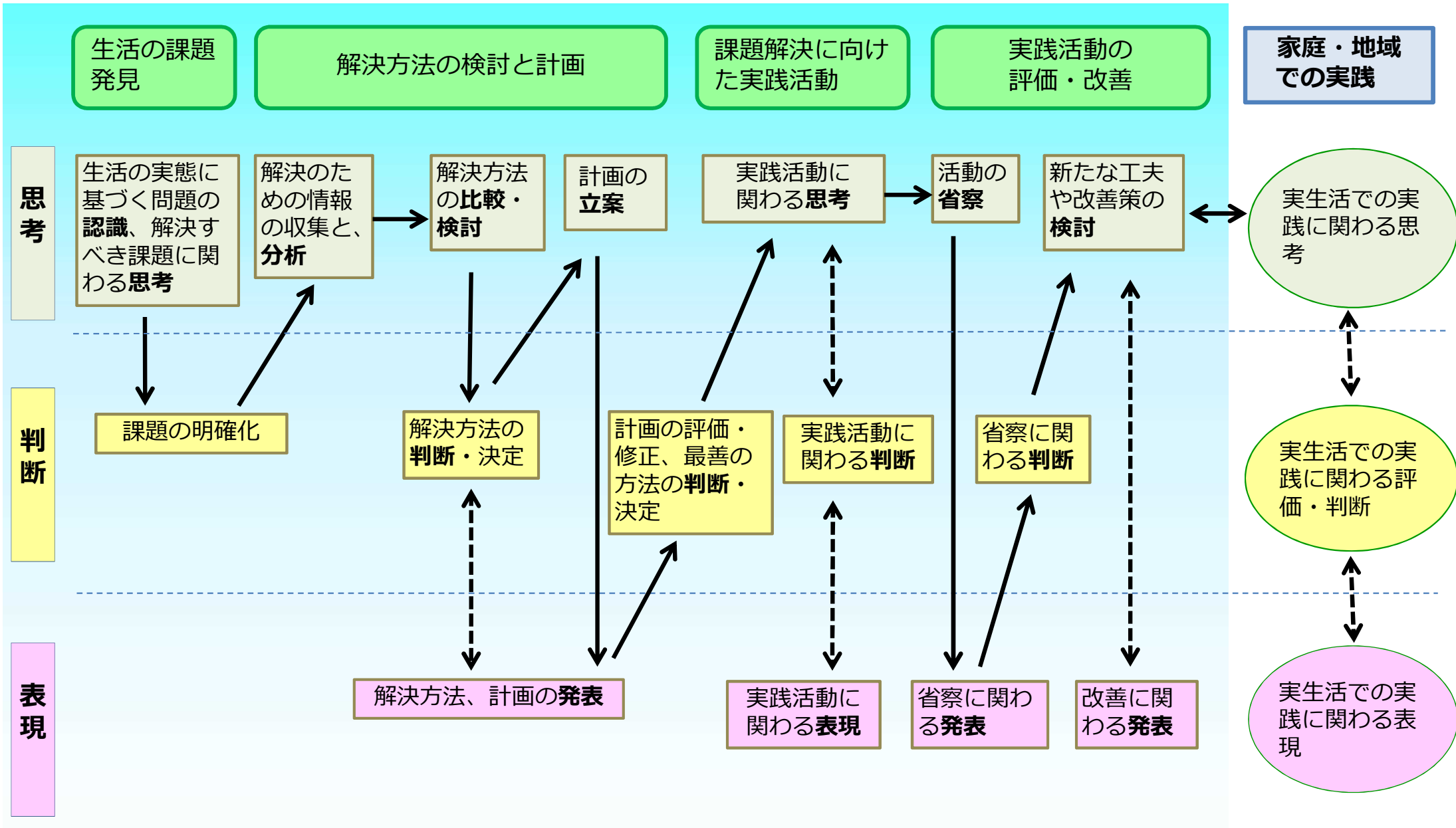
【目指す資質・能力と学習評価の場面の例】



※上記に示す各学習過程は例示であり，上例に限定されるものではないこと

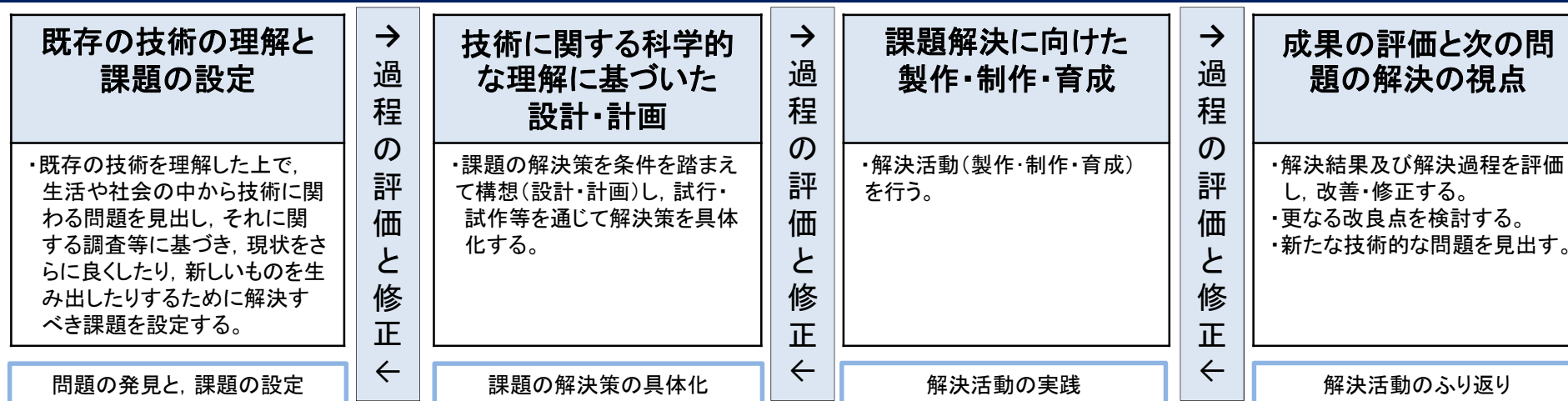
例) 自分の生活や家庭生活と関わらせて思考・判断・表現する流れ

→ 思考の道すじ



技術・家庭科（技術分野）の学習過程のイメージ

資料4-2



【目指す資質・能力と学習評価の場面の例】

知識・技能	・技術に用いられている科学的な原理・法則の理解	
	・技術の概念の理解 ○技術の役割と、生活や社会、環境に与える影響についての理解	
	○技術を安全・適切に管理・運用できる技能	
思考力・判断力・表現力	○生活や社会の中から技術に関わる問題を見出し、解決すべき課題を設定する力	
	○課題の解決策を条件を踏まえて構想（設計・計画）する力 ○試行・試作等を通じて解決策を具体化する力	
	○課題の解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する力	
	○課題の解決策を製作図、流れ図、作業計画表等に表す力	
態度	○進んで技術と関わり、主体的に技術を理解し、技能を身に付けようとする態度	
	○自分なりの新しい考え方やとらえ方によって、解決策を構想しようとする態度	
	○自らの問題解決及びその過程をふり返り改善・修正しようとする態度	
	○知的財産を創造・保護・活用しようとする態度 ・技術に関わる倫理観 ・他者と協働して粘り強く物事を前に進める態度	

※上記に示す各学習過程は例示であり、上例に限定されるものではないこと

家庭、技術・家庭科における評価の観点のイメージ

資料5-1

観点（例） ※具体的な観点の書きぶりは、 各教科等の特質を踏まえて検討		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各観点の趣旨の イメージ(例) ※具体的な記述については、 各教科等の特質を踏まえて検討	高等学校	【家庭】 生活を科学的に理解し、自立した生活者に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等に関する知識・技能を身に付けている。	【家庭】 家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決している。	【家庭】 様々な年代の人と交流し相互に支え合う社会の構築に向けて、地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造し、主体的に実践しようとしている。
	中学校	【技術・家庭】 生活や技術に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、生活と技術との関わりについて理解している。 （技術分野） 生活や社会で利用されている技術についての基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。 （家庭分野） 家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。	【技術・家庭】 生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決している。 （技術分野） 生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決している。 （家庭分野） 家族・家庭や地域の生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決している。	【技術・家庭】 よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造し、主体的に実践しようとしている。 （技術分野） よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとしている。 （家庭分野） 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造し、主体的に実践しようとしている。
	小学校	【家庭】 日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境等に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。	【家庭】 日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を振り返って評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決している。	【家庭】 家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫し、主体的に実践しようとしている。

家庭、技術・家庭科における評価の観点のイメージ

資料5－1補足資料

高等学校 家庭			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	生活を科学的に理解し、自立した生活者に必要な知識・技能を身に付けている。	家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決している。	様々な年代の人と交流し相互に支え合う社会の構築に向けて、地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造し、主体的に実践しようとしている。

中学校 技術・家庭 家庭分野			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。	家族・家庭や地域の生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決している。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造し、主体的に実践しようとしている。

中学校 技術・家庭			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	生活や技術に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、生活と技術との関わりについて理解している。	生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決している。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造し、主体的に実践しようとしている。

中学校 技術・家庭 技術分野			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	生活や社会で利用されている技術についての基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決している。	よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとしている。

小学校 家庭			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境等に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。	日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を振り返って評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決している。	家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫し、主体的に実践しようとしている。

小学校 家庭科の改訂の方向性

資料6-1

現行学習指導要領	検討事項	今後の方向性	
A 家庭生活と家族 (1) 自分の成長と家族 (2) 家庭生活と仕事 (3) 家族や近隣の人々とのかかわり B 日常の食事と調理の基礎 (1) 食事の役割 (2) 栄養を考えた食事 (3) 調理の基礎 C 快適な衣服と住まい (1) 衣服の着用と手入れ (2) 快適な住まい方 (3) 生活に役立つ物の製作 D 身近な消費生活と環境 (1) 物や金銭の使い方と買物 (2) 環境に配慮した生活の工夫	家庭科における見方・考え方	目指す資質・能力等	内 容
	家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること	○日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解と技能 ・家庭生活と家族についての理解 ・生活の自立の基礎として必要な衣食住についての理解と技能 ・消費生活や環境に配慮した生活の仕方についての理解と技能	● 家族・家庭生活に関する内容 ○少子高齢化に関する内容の改善 ・家族や地域の人々との関わり(異世代)、家庭の仕事への協力等、家庭生活と家族の大切さの理解に関する内容の充実(実践的な学習は他教科等と連携) ○家庭や地域との連携を図り、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実
	「論点整理」における指摘事項 ・生活の科学的な理解 ・生活課題を解決する能力と実践的な態度の育成 ・小・中・高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力の明確化 ・各学校段階を通じて、家庭や社会とのつながりを重視 ・少子高齢社会、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立や持続可能な社会づくりのための力、他者と共生し自立して生活する力、生涯を見通して生活を設計し創造していく力の育成	○日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、課題を解決する力 ・日常生活の中から問題を見出し、課題を設定する力 ・生活課題について自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を構想する力 ・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを根拠や理由を明確にしてわかりやすく表現する力 ・他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えをわかりやすく伝えたりして計画・実践等について評価・改善する力	● 衣食住の生活に関する内容 ○衣食住の生活に関する内容の改善 ・生活の自立の基礎を培うための基礎的な技能の確実な習得を図る学習の充実 ・健康で安全な食生活のための食育の充実 ・日本の生活文化の大切さに気付く学習の充実 ○生活の科学的な理解の重視 ○家庭や地域との連携を図り、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実
	関連する会議における提言等 ○少子化社会対策大綱(H27. 3. 20閣議決定) 妊娠や家庭・家族の役割については、発達の段階に応じた適切な教育の推進を図る ○高齢社会対策大綱(H24. 9. 7閣議決定) 高齢社会に関する課題や高齢者に対する理解を深める ○第3次男女共同参画基本計画(H22. 12. 17閣議決定) 家庭を築くことの重要性などについての指導の充実を図る ○食育推進基本計画(H23. 3. 31食育推進会議決定) 学校教育全体を通して食育を組織的・計画的に推進する ○和食の無形文化遺産登録(H25. 12. 4) 日本の伝統的な食文化 ○消費者教育の推進に関する法律(H24. 8. 22) 学校における消費者教育の推進 ○環境基本計画(H24. 4. 27閣議決定) 学校や社会におけるESDの理念に基づいた環境教育等の教育を推進する	○家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度 ・家庭生活を大切にする心情 ・家族や地域の人々と関わり、協力しようとする態度 ・生活をしようとする態度 ・日本の生活文化を大切にしようとする態度	● 消費生活・環境に関する内容 ○持続可能な社会の構築に関する内容の改善 ・消費生活や環境に配慮した生活の仕方に関する内容の充実(実践的な学習は他教科等と連携) ○家庭や地域との連携を図り、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実

小・中・高の系統性、既存の内容の関連性、家庭科における見方・考え方を踏まえた内容の改善

中学校 技術・家庭科（家庭分野）の改訂の方向性

資料6-2

現行学習指導要領	検討事項	今後の方向性	
	家庭分野における見方・考え方 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること 「論点整理」における指摘事項 - 生活の科学的な理解 - 生活課題を解決する能力と実践的な態度の育成 - 小・中・高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力の明確化 - 各学校段階を通じて、家庭や社会とのつながりを重視 - 少子高齢社会、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立や持続可能な社会づくりのための力、他者と共生自立して生活する力、生涯を見通して生活を設計し創造していく力の育成 関連する会議における提言等 ○少子化社会対策大綱（H27. 3. 20閣議決定） 妊娠や家庭・家族の役割については、発達の段階に応じた適切な教育の推進を図る ○高齢社会対策大綱（H24. 9. 7閣議決定） 高齢社会に関する課題や高齢者に対する理解を深める ○第3次男女共同参画基本計画（H22. 12. 17閣議決定） 家庭を築くことの重要性などについての指導の充実を図る ○食育推進基本計画（H23. 3. 31食育推進会議決定） 学校教育全体を通して食育を組織的・計画的に推進する ○和食の無形文化遺産登録（H25. 12. 4） 日本の伝統的な食文化 ○消費者教育の推進に関する法律（H24. 8. 22） 学校における消費者教育の推進 ○環境基本計画（H24. 4. 27閣議決定） 学校や社会におけるESDの理念に基づいた環境教育等の教育を推進する	目指す資質・能力等 ○生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解と技能 - 家庭の基本的な機能及び家族についての理解 - 幼児、高齢者についての理解と技能 - 生活の自立に必要な衣食住についての理解と技能 - 消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立についての基礎的な理解と技能 ○家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、これからの生活を展望して課題を解決する力 - 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出し、課題を設定する力 - 生活課題について他の生活事象と関連付け、これからの生活を展望して多角的に捉え、解決策を構想する力 - 実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを根拠や理由を明確にして論理的に表現する力 - 他者の意見を聞き、自分の意見との相違点や共通点を踏まえ、計画・実践等について評価・改善する力 ○家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度 - 家庭生活を支える一員として生活をよりよくしようとする態度 - 地域の人々と関わり、協働しようとする態度 - 生活を楽しみ、豊かさを味わおうとする態度 - 日本の生活文化を継承しようとする態度 - 将来の家庭生活や職業との関わりを見通して学習に取り組もうとする態度	内 容 小・中・高の系統性、既存の内容の関連性、家庭分野における見方・考え方を踏まえた内容の改善 ● 家族・家庭生活に関する内容 ○少子高齢化に関する内容の改善 - 家庭の機能の理解や幼児、高齢者との交流等、家族や地域の人々との関わり、家庭生活と地域との関わりに関する内容の充実 （実践的な学習は他教科等と連携） ○家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実 ● 衣食住の生活に関する内容 ○衣食住の生活に関する内容の改善 - 生活の自立を促すための基礎的な技能の確実な習得を図る学習の充実 - 健康で安全な食生活のための食育の充実 - 日本の生活文化の継承に係る学習の充実 ○生活の科学的な理解の重視 ○家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実 ● 消費生活・環境に関する内容 ○持続可能な社会の構築に関する内容の改善 - 消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎となる内容の充実 （実践的な学習は他教科等と連携） ○家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実

高等学校 家庭科（共通教科）の改訂の方向性

資料6－3

現行学習指導要領	検討事項	今後の方向性	
	家庭科における見方・考え方	目指す資質・能力等	内 容
家庭基礎(2単位) (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉 (2) 生活の自立及び消費と環境 (3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること 「論点整理」における指摘事項 ・生活の科学的な理解 ・生活課題を解決する能力と実践的な態度の育成 ・小・中・高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力の明確化 ・各学校段階を通じて、家庭や社会とのつながりを重視 ・少子高齢社会、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立や持続可能な社会づくりのための力、他者と共生し自立して生活する力、生涯を見通して生活を設計し創造していく力の育成	○自立した生活者に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解と技能 ・家族・家庭についての理解 ・乳幼児の子育て支援等や高齢者の生活支援等についての理解と技能 ・生涯の生活設計についての理解 ・各ライフステージに対応した衣食住についての理解と技能 ・生活における経済の計画、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立についての理解と技能 ○家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、生涯を見通して解決する力 ・家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出し、課題を設定する力 ・生活課題について他の生活事象と関連付け、生涯を見通して多角的に捉え、解決策を構想する力 ・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして論理的に表現する力 ・他者の立場を考え、多様な意見や価値観を取り入れ、計画・実践等について評価・改善する力	必履修科目・単位 「家庭基礎(仮称)」2単位科目 ○少子高齢化に関する内容の改善 ・親の役割と子育て支援(乳児期)、高齢者の理解と生活支援技術の基礎、生涯の生活を設計するための意思決定等、少子高齢社会を支える実践力を育成するための内容の充実 ○衣食住の生活に関する内容の改善 ・自立した生活者に必要な実践力を定着させる学習の充実(食育、食文化等の充実) ○生活の科学的な理解の一層の重視 ○持続可能な社会の構築に関する内容の改善 ・消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定能力の育成を図る内容の充実 ○「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実
家庭総合(4単位) (1) 人の一生と家族・家庭 (2) 子どもや高齢者とのかかわりと福祉 (3) 生活における経済の計画と消費 (4) 生活の科学と環境 (5) 生涯の生活設計 (6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	関連する会議における提言等 ○少子化社会対策大綱(H27. 3. 20閣議決定) 妊娠や家庭・家族の役割については、発達の段階に応じた適切な教育の推進を図る ○高齢社会対策大綱(H24. 9. 7閣議決定) 高齢社会に関する課題や高齢者に対する理解を深める ○第3次男女共同参画基本計画(H22. 12. 17閣議決定) 家庭を築くことの重要性などについての指導の充実を図る ○食育推進基本計画(H23. 3. 31食育推進会議決定) 学校教育全体を通して食育を組織的・計画的に推進する ○和食の無形文化遺産登録(H25. 12. 4) 日本の伝統的な食文化 ○消費者教育の推進に関する法律(H24. 8. 22) 学校における消費者教育の推進 ○環境基本計画(H24. 4. 27閣議決定) 学校や社会におけるESDの理念に基づいた環境教育等の教育を推進する	○相互に支え合う社会の構築に向けて、主体的に地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度 ・男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造しようとする態度 ・様々な年代の人とコミュニケーションを図り、主体的に地域社会に参画しようとする態度 ・生活を楽しみ味わい、豊かさを創造しようとする態度 ・日本の生活文化を継承・創造しようとする態度 ・自己のライフスタイルの実現に向けて、将来の家庭生活や職業生活を見通して学習に取り組もうとする態度	「家庭総合(仮称)」4単位科目 ○少子高齢化に関する内容の改善 ・親の役割と子育て支援(乳児との触れ合い、子供とのコミュニケーション)に係る内容の充実、高齢者の理解と生活支援技術、生涯の生活を設計するための意思決定等、少子高齢社会を支える実践力を育成するための内容の充実 ○衣食住の生活に関する内容の改善 ・自立した生活者に必要な実践力を定着させる学習の充実(食育、食文化等の充実) ・健康、安全等を考慮した衣食住の生活を総合的にマネジメントする力を育成するための内容の充実 ・日本の生活文化の継承・創造に係る内容の充実 ○生活の科学的な理解の一層の重視 ○持続可能な社会の構築に関する内容の改善 ・消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定能力の育成を図る内容の充実 ・消費生活や環境に係る地域への働きかけなど社会参画力を育成するための内容の充実 ○「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実
生活デザイン(4単位) (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉 (2) 消費や環境に配慮したライフスタイルの確立 (3) 食生活の設計と創造 (4) 衣生活の設計と創造 (5) 住生活の設計と創造 (6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動			※必履修科目の履修後は、生徒の特性や進路に応じて、専門教科「家庭」の科目を履修することができる。

小・中・高の系統性、既存の内容の関連性、家庭科における見方・考え方を踏まえた内容の改善

中学校技術・家庭科（技術分野）の改訂の方向性

資料6－4

現行学習指導要領	検討事項	今後の方向性	
A 材料と加工に関する技術 (1) 生活や産業の中で利用されている技術 (2) 材料と加工法 (3) 材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作 B エネルギー変換に関する技術 (1) エネルギー変換機器の仕組みと保守点検 (2) エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作 C 生物育成に関する技術 (1) 生物の生育環境と育成技術 (2) 生物育成に関する技術を利用した栽培又は飼育 D 情報に関する技術 (1) 情報通信ネットワークと情報モラル (2) デジタル作品の設計・制作 (3) プログラムによる計測・制御	技術分野の技術の見方・考え方 生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること。 「論点整理」における指摘事項 ・技術を適切に評価・活用し、安心・安全な生活の実現に貢献できる力 ・技術を創造し、よりよい社会を構築できる力 ・育成すべき資質・能力の明確化 ・技術に関する科学的な理解 ・技術と社会・環境との関わり方の理解の充実 ・プログラミングや情報セキュリティ等も含めた情報活用能力の育成等の充実 ・小学校図画工作科、高等学校情報科、職業に関する教科・科目等との関連 関連する会議における提言等 ○世界最先端IT国家創造宣言（平成27年6月30日一部改訂）：<u>初等・中等教育段階におけるプログラミングに関する教育の充実に努め、ITに対する興味を育むとともに、ITを活用して多様化する課題に創造的に取り組む力を育成する。</u> ○成長戦略の進化のための今後の検討方針（平成28年1月25日 産業競争力会議）；第4次産業革命に向けて、異なる多様な知を結びつけながら新たな付加価値を生み出す創造的な活動を行うことができる人材を育成することが必要 ○知的財産推進計画2015（平成27年6月 知的財産戦略本部）：青少年の知財に対する意識と知識を向上させ知財人財の裾野拡大につなげるべく、小中高等学校において知的財産に関する教育の推進を図る	目指す資質・能力等 ○生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換、情報等の技術についての基礎的な理解と技能及び、技術と生活や社会との関わり方の理解 ・技術に用いられている科学的な原理・法則の理解 ・技術を安全・適切に管理・運用できる技能 ・技術の概念、技術の役割と、生活や社会、環境に与える影響についての理解 ○生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力 ・生活や社会の中から技術に関わる問題を見出し、解決すべき課題を設定する力 ・課題の解決策を条件を踏まえて構想（設計・計画）する力 ・課題の解決策を製作図、流れ図、作業計画表等に表す力 ・試行・試作等を通じて解決策を具体化する力 ・課題の解決結果及び解決過程を評価し改善・修正する力 ○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度 ・進んで技術と関わり、主体的に技術を理解し、技能を身に付けようとする態度 ・自分なりの新しい考え方やとらえ方によって、解決策を構想しようとする態度 ・自らの問題解決とその過程を振り返り改善・修正しようとする態度 ・知的財産を創造・保護・活用しようとする態度、技術に関わる倫理観、他者と協働して粘り強く物事を前に進める態度 学びの過程についての考え方を踏まえた教育内容 既存の技術の理解と課題の設定 →過程の評価 ← 技術に関する科学的な理解に基づいた設計・計画 →過程の評価 ← 課題解決に向けた製作・制作・育成 →過程の評価 ← 成果の評価と次の問題の解決の視点 ① 生活や社会を支える技術 ② 技術による問題の解決 ③ 社会の発展と技術	内 容 A 材料と加工の技術 ①生活や社会を支える材料と加工の技術 ②材料と加工の技術による問題の解決 ③社会の発展と材料と加工の技術 B 生物育成の技術 ①生活や社会を支える生物育成の技術 ②生物育成の技術による問題の解決 ③社会の発展と生物育成の技術 C エネルギー変換の技術 ①生活や社会を支えるエネルギー変換の技術 ②エネルギー変換の技術による問題の解決 ③社会の発展とエネルギー変換の技術 D 情報の技術 ①生活や社会を支える情報の技術 ②動的コンテンツプログラムによる問題の解決 ③計測・制御プログラムによる問題の解決 ④社会の発展と情報の技術 ※ 1年の最初に扱う内容の「①生活や社会を支える技術」は、3年間の技術分野の学習の見通しを立てさせるガイダンス的な内容としても指導する ※ 3年で取り上げる内容の「②技術による問題解決」では、他の内容の技術も含めた統合的な問題について取り扱う